

一 般 質 問 通 告 表

		ページ	
①	笠原幸江	……	1 (3月2日予定)
②	山本剛	……	3 (〃)
③	滝川正義	……	4 (〃)
④	保坂悟	……	6 (〃)
⑤	田中立一	……	8 (〃)
⑥	田原実	……	10 (3月3日予定)
⑦	五十嵐健一郎	……	12 (〃)
⑧	渡辺重雄	……	13 (〃)
⑨	佐藤孝	……	14 (〃)
⑩	新保峰孝	……	16 (〃)
⑪	松尾徹郎	……	17 (3月5日予定)
⑫	東野恭行	……	18 (〃)
⑬	古川昇	……	20 (〃)
⑭	吉岡静夫	……	21 (〃)

令和2年(3月)第1回市議会定例会

質 問 事 項

① 笠原幸江

1 新型コロナウイルスについて

【答弁者：市長】

昨年12月以降、中国湖北省武漢市において新型コロナウイルスが発生し、終息する気配がありません。関連情報が目まぐるしく報道され、新型コロナウイルスによる感染者の人数が日に日に増加し、2月19日現在の報道によると、中国本土では、死者が2千人を突破している状況であります。

新型コロナウイルスに対応できるワクチンが開発されていないことや、マスク、アルコール消毒液が不足していて購入できないことなど、市民がこの新型コロナウイルスに脅威を感じているのではないのでしょうか。

新潟県では新型コロナウイルスに関する「帰国者・接触者相談センター」が糸魚川保健所（糸魚川地域振興局健康福祉部）に設置されていますが、国内でも相次ぐ感染状況を見ると、自分の身は自分で守ると言っても感染力が強く、いつどこで感染したのか感染経路が難しくなっているのが現状です。

当市の2月10日付けの回覧物によると、感染力はほぼインフルエンザと同程度と言われ、過剰に心配することなく、咳エチケットや手洗い、うがい等通常の感染予防に努めてと呼び掛けていますが、全国どこでも起こり得る状況を鑑み、市民の不安を少しでも払拭するために、市の全庁の取組と窓口開設、危機管理体制、市内の医療体制と検査体制について、市民と情報を共有するために伺います。

2 糸魚川シーサイドバレースキー場の平成28年度指定管理業務評価票について

【答弁者：市長】

記録的な暖冬少雪が続き、当市のシーサイドバレースキー場はオープンできない状況となっていて深刻な事態となり、1月31日に今季の営業休止が決定されました。地球温暖化の影響が今後加速するのではないかと危惧しています。

スキー場のみならず農作物や水産資源、更に水不足と様々な産業や経済にも影響するのではないのでしょうか。越後の雪は余寒に降ると言い伝えられていましたが、立春が過ぎても積雪がありません。そこで深刻さが増している市内スキー場の現状と課題等について、以下の項目について伺います。

(1) 糸魚川シーサイドバレースキー場の評価票で、評価委員の意見は次のように述べられています。

- ① 自己評価がC評価（早急に改善対策を要するもの）になった以上、暖冬になった場合を想定した少雪対策案を始めとする今後の努力点や代替案を作成願いたいと明記されています。これらの努力点や代替案の対策を取られていますか伺

質 問 事 項

います。

② 全体評価では、「借地契約については現状を今一度確認のうえ、費用面等について調査、検討を行う必要があると考える。市は指定管理料を公費として支出する立場から、また指定管理者は公費による運営を行う立場から、経費の流れを細かく分析していることが大切である。仮に前年度の実績に基づくだけの収支計画になってしまった場合、適切な運営から離れてしまうので、市はある程度の支出基準・判断基準を設けたうえで比較分析するようにしていただきたい。評価制度化が安定してきている中、収支状況の項目を損益計算表の構成に合わせるなど改良願いたい。」と提案されていますが、経費の細分析・支出判断基準の比較分析・損益計算表の改良等について、どのように改善をされていますか伺います。

(2) 指定管理者の業務等の報告確認について

① 地方自治法第244条の2第10項で、「指定管理者に対して、当該管理の業務又は経理の状況に関し報告を求め、実施について調査し、又は必要な指示をすることができる」と規定されています。シャルマン火打スキー場及び糸魚川シーサイドバレースキー場の報告時期と業務及び経理の報告内容は、どのようになっていますか伺います。

② 平成24年6月定例会において、松尾徹郎議員の一般質問で、シャルマン火打スキー場及び糸魚川シーサイドバレースキー場の業務・経理の状況報告の項目及び内容がバラバラで比較できないことから、統一した報告書とすると答弁されてから6年経過しています。当然委員会審査には統一された資料で提出されるものと思いますがいかがか伺います。

(3) シャルマン火打スキー場及び糸魚川シーサイドバレースキー場の内容の違いについて

指定管理料の額の違いは明確であるが、管理料の根拠となる管理項目及び管理内容について、その違いが確認できないので、前段の「業務及び経理」資料統一と同じように、違いがはっきりと分かるような対比ができる資料の作成を要請したいがいかがか伺います。

(4) リスク負担の限度について

シーサイドバレースキー場のリスク負担については、市民からいろいろと意見が寄せられているが、リスク負担は青天井なのか、あるいは限度額を定めているのか、リスク負担の考え方を市民にわかりやすく、また、その時々でリスク負担の基準が変わらないよう文書表記できないか伺います。

(5) シーサイドバレースキー場に対し、これまで支援してきた総額について

平成10年に索道・土地・建物・備品等を市が買い取り、平成13年に市有財産の賃貸借契約を行い、平成18年に賃貸料を免除し、同年から指定管理者の指定をして管理料を支払ってきています。このスキー場の施設の買取り金額及びこれま

質 問 事 項

での指定管理料、施設の大規模修繕費等に当市が支払った総額はどれほどになっているか伺います。

(6) 自治体の収益事業に対する警告について

バブル期に多くの自治体は収益事業に取り組んできましたが、成功例はほんのわずかで大部分が多額な負債を残して事業から撤退しています。県内でも失敗例が報告されています。当市も人口減少とともに交付税の減少等が続く中、行政需要が増加傾向にあり、国及び地方自治体は、収益事業に警鐘を鳴らし、今の時点から赤字経営の収益事業を見極め、財政健全化の取組をする必要があると考えますがいかがか伺います。

② 山 本 剛

1 高校を核とした地域人材育成について

【答弁者：市長、教育長】

本年2月7日に地域や学校、企業等の関係者が集まり「第20回教育懇談会」が実施されました。市内3高校からも参加し、各校の特色を生かした学習成果の発表が行われました。以下質問します。

(1) 現在行われている「高校を核とした地域人材育成事業」について、市はその成果をどのように考えているか伺います。また、今後の進め方について、どのように考えているか伺います。

(2) 「教育懇談会」の発表で、糸高生から高校生がバスガイドをしてはとの提案がありました。

市に対してこんな施設が欲しいとか、こんなことをして欲しいではなく、自ら高校生に何ができるかという内容でした。

そこで、この提案を実現させてあげたいと考えますが、市長としての見解を伺います。

2 降雨災害に関する防災・避難等について

【答弁者：市長】

昨年10月の台風19号では、能生及び早川地区に避難勧告が出されました。その後、昨年12月定例会では各議員から様々な質問が出されました。私も9月定例会の一般質問で避難について質問をさせていただきましたが、地球温暖化による降雨災害が現実味を増す中、改めて質問させていただきます。

質 問 事 項

- (1) 昨年の台風19号での避難について伺います。
- ① 市が開設した避難所の数は、何か所ですか。
 - ② その避難所に避難した人数は、何人ですか。
 - ③ 避難所の開設に関わった市職員の人数は、時間は、費用は、どれだけですか。
 - ④ 市が開設した避難所以外への避難人数を把握していますか。
その実態を調査する必要を感じていますか。
- (2) 市内に設置してある河川の水位計について伺います。
- ① 市内に設置している水位計の状況は、どうなっていますか。
 - ② 今後、水位計を増設する計画はありますか。
 - ③ 降雨時の河川監視で、この水位計で充分と考えていますか。
 - ④ 他の方法、例えばカメラによる監視は考えていますか。
 - ⑤ 河川の水位情報や堤防決壊情報等、市民への伝達方法に問題はないですか。
- (3) ハザードマップの市民の認知状況について
- ① 市民の認知度はどの程度と考えていますか。
 - ② 認知度を上げるための方策を考えていますか。
- (4) 大水害となった千曲川では、雨が止んでからの決壊でした。河川の長さによる時間差での増水が原因でした。
そこで姫川・早川・能生川等では、上流で降った雨が海に到達するまでの時間はどのくらいか伺います。

③ 滝川正義

1 東京2020オリンピック・パラリンピックに関して

【答弁者：市長】

(1) 自主的な聖火リレーについて

オリンピックを盛り上げるために、公式の聖火リレーとは別に、糸魚川市の自主的な聖火リレーを実施できないか伺う。

(2) サイバー攻撃への対応について

オリンピック開催中は、地方ではサイバー攻撃への防御が手薄になるが、市のサイバー攻撃への対応は、どのようになっているか伺う。

2 危機管理対応について

【答弁者：市長】

(1) 新型コロナウイルスの感染拡大への対応について

質 問 事 項

- ① 感染拡大の現状認識と市の対応について伺う。
 - ② 感染が疑われる事例が出てきた場合、専門外来から入院治療まで一連の医療が市内で完結できるのか伺う。
 - ③ 市では感染症に対応した行動計画が策定されているのか、また、それは最新の知見を取り入れ、適宜改訂しているのか併せて伺う。
- (2) 切迫活断層が引き起こす地震への対応について
- 糸魚川市は南に「糸魚川―静岡構造線断層帯(北部区間)」、東に「高田平野東縁断層帯」、西に「魚津断層帯」の3つの活断層に囲まれているが、これらによる地震対策はどのように考えているのか伺う。

3 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について

【答弁者：市長】

- (1) 「総合戦略」の基本的な考え方等について
第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的な考え方及びその背景について伺う。
- (2) 森林資源を活用した首都圏との連携事業について
連携事業として、首都圏の公共施設への木材利用や森林教育での連携を掲げているが、別のアイデアを出す必要があるのではないかと伺う。
- (3) 若者の移住促進について
ライフスタイルに着目した若者の移住促進を掲げているが、どのような具体的な手法を考えているのか伺う。
- (4) 交通を活かし稼ぐ地域産業を育てるまちづくりについて
CCRCの実現とアクティブシニアの移住のどちらが主目的なのか伺う。
- (5) Society5.0について
糸魚川においてどのようなSociety5.0をイメージし、対応しようとしているのか伺う。

質 問 事 項

④ 保 坂 悟

1 バリアフリーの推進について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 車椅子やベビーカーの利用者支援について

- ① 飲食店等事業所のバリアフリー化支援の考えはあるか。
- ② 公共施設のバリアフリーの点検と改善を行う考えはあるか。
- ③ 障害者や妊産婦用の駐車場について、官民で点検する考えはあるか。
- ④ 公共施設等に配備されている車椅子の点検を行う考えはあるか。

(2) 高齢者等の買い物支援について

- ① バス停などの待合所の環境整備を行う考えはあるか。
- ② 官民による買い物宅配サービスを行う考えはあるか。
- ③ 健康づくりと買い物支援を融合させた取組の考えはあるか。

(3) 障害者等の就学支援と卒業後に希望が持てる仕組みについて

0歳から18歳までの子ども一貫教育における支援の特色として、どのようなものがあるか。

(4) 障害者等の就労支援がある持続可能なまちの形について

- ① 就労の機会を増やす取組は、どのようなものがあるか。
- ② 岡山県総社市の障害者1,500人雇用プロジェクトのような取組を行う考えはあるか。

2 糸魚川市のまちづくりについて

【答弁者：市長、教育長】

(1) SDGs（持続可能な開発目標）に取り組むまちづくりについて

- ① 「誰一人取り残さない」という理念のもと、教育・福祉・人権等を中心に各課で具体的な取組を行う計画や考えはあるか。
- ② 市として自然環境を守るための取組や計画や考えはあるか。
- ③ 地域資源を活かす持続可能な仕組みづくりを行う考えはあるか。
- ④ SDGsの活動を楽しく普及するため、17色バッジやのぼり旗、ポスターなど様々なSDGsグッズを活かす考えはあるか。

(2) 行政改革と持続可能なまちづくりについて

- ① AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、5G（第5世代移動通信システム）の導入で事務効率の向上を目指す考えはあるか。
- ② 内部統制や外部監査を具体的に進める考えはあるか。
- ③ 人口減対策として税収アップ（稼ぐ手法）を行う考えはあるか。

質 問 事 項

(3) 「子育てするなら糸魚川」となるまちづくりについて

- ① 森の幼稚園や海洋幼稚園など地域資源を活かし、都会にはない特色を持った認定こども園を構築する考えはあるか。
- ② 子どもと高齢者が共存できる空間づくりを検討する考えはあるか。

3 安心・安全なまちづくりについて

【答弁者：市長、教育長】

(1) 学校等の防犯カメラ設置について

新年度の具体的な計画は、どのように考えているか。

(2) 民間事業所のAED設置状況の把握と設置推進について

企業の工場や敷地の広い店舗においてAEDの配備とその周知が必要と考えるが、設置の支援や周知の推進についての考えはあるか。

(3) 通学路等の路面整備について

消雪パイプ（コンクリート部分）とアスファルトのつなぎ目の段差やへこみの解消と凍結防止対策について、工夫する考えはあるか。

(4) 災害時の拠点整備について

災害時の情報収集にはスマートフォンが活躍する。電源確保の観点から、市役所や能生・青海事務所に電気自動車の急速充電スタンドの設置と、公用車に電気自動車の拡充を行う考えはあるか。

(5) 高齢者ドライバーへの安全対策推進について

国が予算化した65歳以上を対象の「安全運転サポート車（サポカー）補助金」と、市独自で行う予定のドライブレコーダー設置促進事業は画期的なものであるが、その周知と推進についての考えはあるか。

4 女性が輝くまちづくりについて

【答弁者：市長、教育長】

(1) 妊娠アシスト事業（産前産後ヘルパー派遣等）について

① 平成20年3月6日の一般質問で産前産後ヘルパー派遣の創設を求め、その後、公明党の予算要望で「産前産後ケアの拡充」を市長要望してまいりました。提案から12年目で予算化され大変喜んでおります。予算化の背景と理由は何か。

② 産後うつ対策として、現在どのような取組があるか。

③ 不妊症や不育症治療のメンタルサポートはあるか。

(2) 「女性がより一層活躍できる環境づくり」について

新年度予算の重点施策項目に掲げているが、具体的な取組としてどのような点を考えているか。

① 行政における改善点は何か。

質 問 事 項

- ② 民間企業や各種産業における改善点は何か。
- ③ 保育園・幼稚園・学校等における改善点は何か。
- ④ 観光や交流人口の拡大における改善点は何か。
- ⑤ 防災や防犯における改善点は何か。

⑤ 田 中 立 一

1 文化の振興と保存・活用について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 国民文化祭の検証について

昨秋、新潟県で初めて開催された国内最大の文化の祭典「第34回国民文化祭」「第19回全国障害者芸術・文化祭」において、県内全体で約70万8千人が来場し、地域文化に様々な形で触れる機会を提供できたと報道されていた。

また、知事は「得られた貴重な経験や知見はレガシーとして活用したい」と述べているが、糸魚川市及びエリアにおいて開かれた多くの事業をどのように検証し、今後につなげるかについて伺う。

(2) 文化財保護法改正への対応について

文化財保護法が改正、施行され、間もなく1年を迎える。今回の改正は、市町村レベルでの民間団体との連携による文化財の保存・活用の推進を目的としたものと言われている。

地域に点在する歴史的建造物や祭りなどの文化財を保存し、そして活用していくにはどのような手法が考えられ、それらはどのように進めていくべきであるか。

少子高齢化社会において、個人所有の有形文化財、伝統芸能などの無形文化財の維持保存は地域の課題でもあり、一方ではその活用によるまちづくりを期待されるものである。

今回の改正を受け、県との連携など取組について考えを伺う。

2 糸魚川市の農業について

【答弁者：市長】

(1) 台風19号による農業被害の影響と復旧状況について

昨年の台風19号は「令和元年東日本台風」と命名されたように、各地に大きな被害をもたらした。市内においても農地、河川等に大きな被害を与えたが、間

質 問 事 項

もなく始まる農作業を前に、作付けへの影響を受けている水田や農道、用水、頭首工等の現状について伺う。

(2) 今冬の記録的な少雪により、夏の水不足が懸念される。農作業への影響と対策について、情報収集と各機関との連携による早めの準備が必要と思うが、作期や耕作への農作物技術指導、用水やため池整備等、現時点における対応策についての考えを伺う。

(3) 有害鳥獣による農作物被害について

昨年はクマが大量出没し、市内でも人身被害が発生した。

また、イノシシやサル、シカなどによる農作物や森林被害も大きく、早急な対策が求められている。

県は特定の大型野生獣に対し、農作物の被害対策と保護管理を一元的に進める「鳥獣被害対策支援センター」の設置や「大口徑ライフル」の射撃場整備の方針だが、市ではこれらに対応した鳥獣被害防止対策の強化について、考えはあるか伺う。

3 テレワークの推進について

【答弁者：市長】

在宅で、あるいは時や場所を選ばずに仕事ができるテレワークは、交通や環境などの都市問題や地域活性化の手段としても期待され、特に今年は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催に当たり、交通機関の混雑緩和に加え、感染症拡大予防策として導入の広がりを見せている。

糸魚川市においてもテレワークを推進するため養成所を開設しているが、現状と課題、更に今後の方針として、希望する市内企業や起業家のテレワーク推進支援や首都圏等企業のサテライト、テレワーカー誘致の取組について考えを伺う。

4 動物愛護について

【答弁者：市長】

(1) 猫の多頭飼育崩壊について

猫は繁殖能力が強い動物で、1頭の雌猫は生まれて6か月で繁殖可能となり、2か月に平均5頭を産むと言われている。

そのため、安易な野良猫への餌やりや飼い主が適正に飼育できる数を超えた結果、経済的にも破綻し、飼育できなくなることから、猫の多頭飼育崩壊が起り、近隣迷惑など、時折社会問題となるが、当市における多頭飼育崩壊の現状とその

質 問 事 項

対応についての考えを伺う。

(2) ペットの譲渡会について

「譲渡会」は単に犬猫等の里親を募集するだけでなく、飼い主となる方へのマナーの周知や啓発の機会でもあり、ペットの殺処分を減らす取組として各地で行われているが、市内での取組状況の把握と各団体との連携について考えを伺う。

⑥ 田 原 実

1 地域医療の現状と課題、8050問題、産婦人科確保への対応について

【答弁者：市長】

- (1) 糸魚川市が主催した地域医療フォーラム「8050 問題を考える」の内容と成果について伺います。
- (2) 社会に居場所を作れずに「ひきこもり」状態の人を社会問題としたり、就労と自立だけを成果とする支援から、その人その人が幸せに生きていくことに寄り添う支援へと、意識と対応を変えていく必要があることをフォーラム講師の話聞いて知りました。行政もこの点を課題として策を講じる必要があると思います。糸魚川市のこれからの対応を伺います。
- (3) 人口減少の影響が最も心配される産婦人科の存続について、出生数、医療機関の現状と課題、市の施策と成果について伺います。
- (4) 糸魚川市で暮らす、働く魅力を打ち出し、医師、看護師、医療スタッフに移住、定住していただくための、市の施策と成果について伺います。
- (5) 出生数の確保や医療スタッフの確保には、何よりも糸魚川市の人口を増やすことだと医療関係の方から意見をいただきました。実際には人口を増やすことは困難ですが、急激に減らさないことで、医療機関の安定的な運営を持続させる計画と実行が現在の糸魚川市にあるか伺います。

2 相馬御風顕彰と都市交流について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 平成 28 年 3 月の一般質問でも相馬御風顕彰を取り上げましたが、4 年間の相馬御風顕彰の動きと成果について伺います。
- (2) 奴奈川姫伝説やヒスイの再発見など、糸魚川の魅力探求の祖ともいえる相馬御風の功績の紹介がまだまだ不足していると感じます。今後の取組について伺います。
- (3) 糸魚川の大火の歴史と御風の生涯について伺います。

質 問 事 項

- (4) 昭和7年の大火からの復興を祝い昭和11年に作られた相馬御風作詞、中山晋平作曲の「糸魚川小唄」は、私たち市民の心のふるさとです。再度光を当てて、かつてのように市内各所で、いろんな場面で「糸魚川小唄」を踊ることを勧めてはいかがでしょうか。市民の健康増進と交流に役立つと思います。「小唄で元気なまちづくり」を提案しますがいかがですか、伺います。
- (5) 時代にあわせた新しい切り口で御風顕彰を進めるべきです。御風の生涯と功績をアニメやコミック誌で紹介し、テレビなどでのドラマ化を目指してほしいと以前担当課に提案したことがありますがいかがですか、伺います。
- (6) 御風顕彰の推進により交流人口を増やすことが可能です。市長が以前に議会答弁の中で触れた、塩尻市、高岡市との短歌でつながる都市交流もその1つですがいかがですか、伺います。

3 糸魚川駅を拠点とする観光戦略、鉄道ジオラマ、フォッサマグナミュージアム、谷村美術館、押上ヒスイ海岸、駅周辺飲食店等の活用と経済効果、HAKUBA VALLEYとの観光連携について

【答弁者：市長】

- (1) 糸魚川駅を拠点とする観光戦略における地域資源連携の重要性について、市長行政の認識と対応を伺います。
- (2) ジオパル内鉄道ジオラマとトワイライトエクスプレスレプリカの活用について伺います。
- (3) 蒸気機関車くろひめ号を走行させることで誘客が更に増えると思ひ提案しますがいかがですか、伺います。
- (4) フォッサマグナミュージアムと長者ヶ原縄文遺跡の活用について伺います。
- (5) 翡翠園・玉翠園・谷村美術館の活用について伺います。
- (6) 押上新駅周辺と押上ヒスイ海岸の活用について伺います。
- (7) ヒスイ王国館と駅周辺飲食店の活用について伺います。
- (8) HAKUBA VALLEYとの観光連携について伺います。
- (9) 公共交通の利便性向上について伺います。
- (10) 新幹線による観光振興と地域経済の好循環について伺います。

質 問 事 項

⑦ 五十嵐 健一郎

1 総合計画策定事業の取組について

【答弁者：市長】

- (1) 従来の総合計画における取組状況と目標設定項目の進捗状況及び問題点について伺います。
- (2) 策定スケジュールについて伺います。
- (3) 策定方針について、以下伺います。
 - ① 位置付けと背景
 - ② 基本方針
 - ア 構成と計画の期間
 - イ 策定の視点と策定作業期間
 - ③ 策定の作業概要
 - ④ 策定体制
 - ⑤ 年度別策定作業
- (4) デザイン思考的アプローチによる地域づくりが今こそ必要であり、それぞれがアイデアを出し合って互いに評価し、議論し、意識の共有化を図って、計画に結びつけていく「共創の場」の創出が糸魚川市に最も必要なことであるが、どう考えるか伺います。
- (5) 地域の皆さん一人ひとりの知恵と力を結集させて「糸魚川の未来づくり」にみんなでチャレンジしていくための計画（行動指針）として策定すべきと思うが、どう考えるか伺います。
- (6) 戦略計画による効果的な事業の立案について伺います。
- (7) 分野別計画と外部評価（市民会議・議会）の取り入れについて伺います。
- (8) 進行管理の考え方について伺います。
- (9) 糸魚川市としての特徴的・先進的な取組をいかに策定するか伺います。

2 第2期「糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」重点戦略事業（チャレンジ事業）について

【答弁者：市長】

- (1) 新たな全世代・全員活躍型の推進強化について、先進地自治体の取組を参考にしているかが伺います。
- (2) 少子化対策（糸魚川で産み、育てるなど）の具体的な取組について伺います。
- (3) 稼ぐ地域産業を育てるまちづくり（リノベーションまちづくり、創業支援体制の強化）について、新たな取組について伺います。

質 問 事 項

(4) 糸魚川版DMOの強化策について伺います。

- ① 広域な「面」で地域をブランディングしていく必要があるが、どう考えるか伺います。
- ② ターゲットの中心軸と地域のストーリー、価値、クオリティを持続可能な形にするのがDMOの役割だと思うが、どう考えるか伺います。

⑧ 渡 辺 重 雄

1 市勢の現状と新たな未来社会 Society5.0 への対応について

【答弁者：市長】

合併から15年、この間、世界情勢が目まぐるしく変化し、社会の不透明感が増す中、気候変動など自然現象も重なり、平穏な暮らしを維持することも難しい時代を迎えています。

これからの糸魚川市は、国が提唱する新たな未来社会である Society5.0 に対応して、AI、IoT、RPAなどの活用で、市民に向けて安心安全な暮らしの道筋を示し、課題を一つひとつ丁寧に解決していく必要があります。

そこで、今回は今後の新たな視点からの取組を期待し、目標とする都市像に込めた想い、そして将来指標を可能にするために、市勢の現状を踏まえ、今後の市政の進め方を伺います。

(1) 各種のランキングから見る糸魚川市の現状について

昨年度の全国各市町村の住みよさランキングや魅力度ランキングなどが各種調査機関から発表されています。当市が上位にランクされている調査もありますが、実態としてどのように捉え、分析しているか伺います。

(2) 行政の仕組みと仕事のあり方について

各種の行政課題を解決するには、未来社会の機能を駆使しての行政運営が必要であり、そのための体制も必要と考えるが、現状の仕組み、仕事のあり方はこれでいいのか、改善、見直しなどについて伺います。

(3) 未来社会 Society5.0 への具体的な対応について

日本の再興戦略として、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、生き活きと快適に暮らすことのできる社会、Society5.0の国の目標に対し、当市がどのように捉え、進めようとしているか伺います。

2 市民憲章、各種宣言の役割と推進について

【答弁者：市長、教育長】

昨年の新語・流行語大賞の年間大賞を受賞したのは、ラグビー日本代表チームの「ワ

質 問 事 項

ンチーム」でした。どんな強豪チームでも選手たちの思い、心が一つにならなければチームとして機能しないということからヘッドコーチが掲げたテーマでした。

当市の市民憲章でも、「市民の心を一つにし、みんなで力を合わす」という制定の趣旨、解説があります。

この市民憲章を始め、各種の宣言が市民の間に浸透し、ワンチームの醸成を始め、いろんな面で機能しているかどうか、社会的な役割と推進について伺います。

(1) 市民憲章について

平成20年に制定され、10年以上経過した現在、主に公共施設の入口や会議室などに掲示されておりますが、市民の身近な存在として、市民の心構え、心のよりどころとなる市民憲章にまで成長しているのかどうか、今後の活用や普及の方法について伺います。

(2) その他の各種宣言や活動について

合併後、はつらつ健康都市宣言、生き生きスポーツ都市宣言、糸魚川市平和都市宣言、糸魚川地酒で乾杯宣言など宣言されておりますが、宣言は外部に対して広く表明することであることから、宣言によりどのような効果が生まれたか、また市民に定着しているか伺います。

(3) 市歌の制作と制定について

全国各地では市歌が制定され、愛唱されているところも多いことから、合併15年の節目に当市でも市歌を制定してはいかがでしょうか。市を描いた詞とイメージした曲で構成した市歌ができれば、一体性醸成はもとより糸魚川市の誇りにもなります。

⑨ 佐藤 孝

1 働き方改革について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 会計年度任用職員について

- ① 会計年度任用職員については、現職の臨時職員からの任用と公募も行っているようだが、どのような状況か伺う。
- ② 任用に当たって初任給の格付け、昇給について伺う。
- ③ 再度の任用については、どうなっているか伺う。
- ④ 総務省マニュアルには「公務の運営においては、任期の定めのない常勤職員を中心とするという原則を前提とすべき」と書かれている。会計年度任用職員制度の施行に当たって、このことが検討されたか伺う。

質 問 事 項

- ⑤ 平成 30 年度の 12 月定例会において、市長は、会計年度任用職員への移行時に、「臨時職員の給与を下げて諸手当で調整するようなことは考えていない」と答弁したが、そのことがどこに生かされているか伺う。
- ⑥ 臨時職員の多くを女性が担っている。SDGs の 17 の目標の中の 5 番目に「ジェンダー平等を実現しよう」と書かれている。日本はジェンダー平等に関して、149 か国中 110 位と後進国である（2018 年世界フォーラム発表）。糸魚川市では、会計年度任用職員制度移行を機会に臨時職員の待遇改善を行って、女性の暮らしやすさをアピールしたらどうかと思うがいかがか。
- ⑦ 昨年 12 月 18 日の高市総務大臣予算折衝・地方財政対策関係記者会見によると、大臣は会計年度任用職員制度の施行に伴い、地方団体に対して期末手当等の所要額の調査を行った結果、1,700 億円程度の一般財源を確保したという話である。このことについてどう考えるか伺う。

(2) 民間の非正規・臨時労働について

市立保育園等については、フルタイムで働く臨時の保育士や幼稚園教諭と保育園調理員が、フルタイムの会計年度任用職員へ移行するようである。今後の待遇改善を期待するところである。

ところで、民営保育園の方からは、保育士の確保とその待遇改善に大変な苦勞をしているという声がある。この対策について伺う。

2 持続可能な糸魚川市について

【答弁者：市長、教育長】

SDGs は「持続可能な開発目標」と訳されているようであるが、私としては、「持続可能な発展目標」と理解している。17 の目標は全面的に賛成できる。

日本全国でも糸魚川市でも、持続に関して、一番問題となっているのは、人口減少問題、人間の再生産の行き詰まりだと思う。以下伺う。

- (1) 老年人口指数について、日本は農村部では 46.34% で 2 位のポルトガルに 5% 以上の大差をつけて世界第一位、都市部も 2 位のイタリアに 4% 以上の大差で世界第一位である（国際統計格付センター）。糸魚川市ではどのような状態か伺う。
- (2) 男性の年収と既婚率には明らかに関連があることが知られている。低年収が家庭を持ってない原因の一つと思うがいかがか。
- (3) 2000 年以降、韓国やイギリスは賃金が上昇しているが、日本においては、賃金の上昇は見られず、大企業の内部留保が増えるばかりであった。この 20 年が、国民・市民の再生産の行き詰まりを決定的にしたと思うがいかがか。
- (4) 十数年前に、学力世界一として有名になったフィンランドでは、国を挙げて子育てに力を入れ、ネウボラという仕組みを作り、成果を上げてきた。糸魚川市で

質 問 事 項

は、こども支援室を設置したが、その取組状況について伺う。

⑩ 新保峰孝

1 地球温暖化と糸魚川市の対策について

【答弁者：市長】

(1) この冬は暖冬少雪と言われる状態だったが、今後予想される稲作における干ばつ等、対応を考えているか。

- ① これまでの暖冬少雪年にどのような影響があったか調べているか。
- ② 干ばつ対策に必要な河川やかんがい施設の現況を把握しているか。
- ③ 今後予想される干ばつ等、負の影響に対する対応策を考えているか。

(2) 日本政府はCO₂削減に対して消極的であるとして、不名誉な「化石賞」が与えられた。地球温暖化による様々な影響が世界的に出ている中で、様々なレベルで取組が行われているが、まだ進行を止めるだけの取組とはなっていない。CO₂排出削減や地球温暖化による様々な影響に対する対応、対策について、糸魚川市はどのように考え取り組んでいるか。

- ① ごみ処理施設におけるCO₂削減対策や資源再利用のためのごみ分別収集の取組はどうか。
- ② 市有施設の自然エネルギーへの転換及び市民や事業所への支援は、どのように行っているか。
- ③ 省エネ化の取組は、どのように進めているか。

(3) 地球温暖化が進む中で、今後の除雪対策、地域産業に対する影響と対応、振興策等、どのように考えているか。

- ① 温暖化が進む中で、長い目で見た除雪対策を考えていく必要があるのではないか。人口減少が進む中で、中山間地域の維持存続と併せ、その地域の農業等の従事者、住民に除雪も委託できるような体制づくりを検討していく必要があるのではないか。
- ② 稲作におけるコシヒカリから新之助への転換等、農業に限らず温暖化に対応した取組を進めるべきでないか。
- ③ 根雪期間が短くなることにより、スキー場の営業期間も短くなっていると思う。2つのスキー場に対する抜本的対策をとるべきではないか。

2 健康づくりと国民健康保険税軽減について

【答弁者：市長】

質 問 事 項

- (1) 「健康いといがわ21」では、当市の死亡原因について「がん」「脳血管疾患」「心疾患」が約半数を占めていると述べている。国民健康保険加入者の医療費に占める、これら生活習慣病の割合は、入院医療費、外来医療費の約4割を占めているとのことだ。
- これまでの取組を踏まえた現状と課題、また早期発見・早期治療に結び付く特定健診等の受診率の推移について、どのように考えているか。
- (2) 生活習慣病と食生活は、密接に関連していると思うが、適切な食習慣の普及啓発、地元食材（ナガモ等海藻類、魚介類、緑黄色野菜、菊芋等）の活用推進は図られているか。がんや肥満予防等、食材の面で地域、農協、漁協、農業普及指導センター等、連携についてはどのように進めているか。
- (3) 健康づくり先進地で取り組んでいるウォーキングによる健康づくりの取組を行う考えはないか。先進地では健診や様々な講座等と結び付けた楽しめる取組を行っている。健康づくりを市民と一緒に取り組むことが、課題を解消する大きな力になると思うがどうか。
- (4) 健康づくりの取組を強化し、医療費を減らすことで均等割をなくす等、国民健康保険税の引下げを図るべきではないか。

⑪ 松 尾 徹 郎

1 教育委員会における現状と課題

【答弁者：教育長】

先日（2月7日）、ヒスイ王国館において、糸魚川市教育委員会主催による、第20回教育懇談会が開催されました。「産・学・官＋高校生で考える糸魚川の明日」と題し、「キャリア教育の実践」と「高校を核とした地域人材の取組」として、市内3校の高校生による体験発表会がありましたが、改めて時代の変遷と教育の変革に気づかされる懇談会であったと思います。

私の高校時代は、詰め込み教育が中心で、ちょうどオイルショックを迎えた頃であり、日本列島改造論に沸く経済成長の時代でした。しかし現在では、経済においては低成長時代に入り、また、産業面ではIT（情報技術）、AI（人工知能）といったハイテク産業を始め、それらを駆使した技術革新などにより、新たな産業が生まれるなど、創造性が求められる時代だと思えます。

このような時代を迎え、ますます国際競争が激化する中、国力を維持し発展するために、今まで以上に学力向上が求められ、授業内容も大きく変わり、子供たちの可能性や特性を伸ばすために、教育環境の整備とともに、新しい時代にふさわしい教育改革が進められようとしています。

質 問 事 項

そのため、義務教育である小・中学校においても、小学校高学年において実施される英語、また、プログラミング教育など教育課程も大きく変わろうとしています。

子供を取り巻く急激な環境変化の中、危惧される点は、今まで以上の知識偏重の学力観や受験戦争の過熱化だけでなく、いじめや不登校問題の深刻化、青少年の非行問題、家庭内における新たな社会問題など、憂慮すべき事態が生じているだけに、教育現場における教職員の負担も大きいと思います。そこで伺います。

(1) 家庭内教育の重要性はもちろんです、幼児教育を始め、市内小・中学校における教育現場では、どのような課題や問題点があるのか、現状について伺います。

(2) 最近、市内の各小・中学校におけるスポーツの活躍をよく耳にしますが、少子化による児童・生徒数の減少によりスポーツクラブ数の減少、それにより、やりたいスポーツができず、限られたスポーツの中からクラブを選ばざるを得ない子供たちの不満、また、一部のスポーツを除き、クラブ指導における有能な指導者を求めたいとの意見をよく聞きます。さらに教師の負担軽減なども指摘されていますが、この点について、どのように考えているか伺います。

なお、その他、教育委員会全体を通して直面している課題があれば、この機会に伺いたいと思います。

⑫ 東 野 恭 行

1 空き家等の利活用について

【答弁者：市長】

糸魚川市空き家等対策計画（平成 29 年度～平成 35 年度）では、「空き家等は個人の財産であり、その所有者によって適正に管理されるべきもの」とあり、空き家等が様々な理由から「地域社会にまで影響を与えているものもある一方で、使用可能な空き家等を有効活用することで地域の活性化にもつながるものと考えられる」とありますが、糸魚川市においても空き家等は増え続ける一方です。最近インターネットでは、空き家物件の無償譲渡についての情報公開が増えてきました。使ってもいない家を所有・維持するのもにも修繕費や税金などお金が掛かります。無償でいいから引き取って欲しいというのはごく自然な流れであると考えます。お金を払うから引き取って欲しいというケースが増えても不思議ではありません。売り手と買い手の双方が納得のいく形で空き家等の売買取引ができれば幸いです。地域社会にまで影響を及ぼす「特定空き家等」になる前の手立てと、空き家等を増やさないための今後の方策が必要になると考えます。

(1) 糸魚川市空き家等対策計画策定後の糸魚川市における「空き家等」の固定資産税・

質 問 事 項

都市計画税の税収は。

- (2) 平成 27 年 5 月 26 日に施行された「空家等対策特措法」施行後、糸魚川市における効果と反響は。
- (3) 空き家、空き地を相続や管理することができなくなった場合の市の考えは。
- (4) 立地適正化計画における居住誘導区域内に点在する空き家の持ち主は、若者・子育て世代の居住誘導を図る計画の内容をご存知か。
- (5) 若い世代が居住する場所を選ぶ一番の基準は何であるとお考えか。
- (6) 使用可能な空き家等を「無償譲渡」したい場合、考えられる手立ては。
- (7) 使用可能な空き家等を有効活用する観点から、民間の空き家・空き店舗に公共施設の機能を誘導する考えはあるか。
- (8) 独居高齢者やそのご家族と「所有物件」の将来像について、コミュニケーションはあるのか。
- (9) 人口減少と空き家等の増加が進む中、糸魚川市において、今後空き家等を増やさないための循環イメージはあるか。

2 糸魚川市駅北復興まちづくり計画について

【答弁者：市長】

駅北大火より 3 年の月日が経過しようとしています。平成 29 年 8 月に策定された当計画では 3 つの方針が掲げられ、復興まちづくりを推進しています。「災害に強いまち」「にぎわいのあるまち」「住み続けられるまち」。これら 3 つの方針のもとに計画は遂行されてきました。

2020 年度からいよいよ復興展開期に差し掛かろうとしています。次年度から始まる復興展開期の内容について伺います。

- (1) 無電柱化工事における本町通り商店街への影響は。売上減少の対策に対して支援の検討はあるか。
- (2) 糸魚川広域商店街における「住宅・店舗リフォーム補助金」事業の実績と広報の方法について。今後継続の見通しは。
- (3) 令和 2 年 4 月 1 日にオープンが迫る「キターレ」。災害などの有事の際にはどのような機能を発揮するとお考えか。
- (4) キターレの運営と、全世代・全員活躍型の「生涯活躍のまち」の関連性について。
- (5) 令和 2 年 7 月以降、「駅北まちづくり戦略」が策定されてからの実施体制や組織体系は。
- (6) 駅北まちづくり戦略が策定され実施されることで、糸魚川市が期待することは。

⑬ 古 川 昇

1 聴覚障害について

【答弁者：市長】

加齢により高齢になると身体に衰えが発生してきます。高齢者対策では生活習慣病予防や足腰の衰えに対する介護予防の取組など、医療・介護や健康増進に多くの事業が行われています。その中であって年齢を重ねると加齢により聴力が衰えて聴覚障害を発症する傾向があり、仕事や日常生活、社会活動参加、コミュニケーションにも困難さが表れています。早めの気づきと対応、予防への取組が重要であり突発性難聴と言われる病気にも有効と指摘されています。以下伺います。

- (1) 高齢に伴う難聴者の調査では何人くらいと把握していますか伺います。
- (2) 認知症疾患につながるリスクに難聴によることが指摘されていますが、どのように捉えていますか伺います。
- (3) 閉じこもりや地域活動参加に消極的な原因として聴覚障害が関連しているのではないかと考えますが、どう捉えていますか伺います。
- (4) 障害者手帳を持っていない難聴者への補聴器購入助成は考えていますか、伺います。

2 障害者支援について

【答弁者：市長】

高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律ができて、点と線をつなぎ、面として一体的に捉えるバリアフリーを考えるようになり、このほど本市においても移動等円滑化促進の方針策定が図られることとなりました。

社会のバリアフリー化の推進では、障害の有無にかかわらず、国民誰もがその能力を最大限発揮しながら、安全に安心して生活できるよう建物、移動、情報、制度、慣行、心理など、物理的バリアと心のバリアの両面にわたる社会のバリアフリー化を強力に推進するとされています。以下伺います。

- (1) 移動等の円滑化を図る方針の考えと、環境整備への進め方について伺います。
- (2) 点字ブロックの補修や敷設について、整備検討事項となっていた箇所の現状と、今後の予定を伺います。
- (3) 音響式信号機の設置について、新たに設置した場所や今後の予定はどうか、また設置の検討内容に、環境やエリア等の基準のほかには何があるのか伺います。
- (4) 重度身障者の外出移動支援について、福祉タクシー券の支給内容の検討とその対象者の要件見直しへの検討は、進んでいるのか伺います。

質 問 事 項

3 地域支援環境対策について

【答弁者：市長】

高齢になってもいつまでも住み慣れた地域で生活が続けられる、安全で安心な社会環境を作ることは重要です。しかし、地域全体で高齢化が進む中で、医療や介護、健康状態など地域住民に影響が出始めています。元気な高齢者に活躍する場を担ってもらうことを前提にして地域支援が提唱されていますが、現実には厳しい状況です。地域の助け合いが継続されて住み続けられる環境づくりは、大きな課題と考えます。以下伺います。

- (1) ごみ集積場の環境と地域のごみ出しルールについて、市内の現状はどうか伺います。
- (2) ごみのポイ捨てや環境汚染につながるごみ捨て問題に対する取組、啓発活動はどのように実施されていますか伺います。
- (3) 高齢化が進んで増え続ける高齢者世帯や体力、気力などの衰えが発生していく中で、地域コミュニティを維持するための地域ケアシステムづくりをどのように進めていくのか、考えを伺います。
- (4) レジ袋の有料化を契機にマイバッグ推進やごみ減量化、二酸化炭素排出削減等に向けて、どのような取組を進めていくのか、考えを伺います。

⑭ 吉岡 静 夫

- 1 身の回り、「高齢化社会」へ
- 2 柵口温泉、「権現荘」
- 3 「姫川病院」、このままで
- 4 「弱者」をこそ「市政」に
- 5 二元代表の一方、「市議」の数

【答弁者：市長】

新年度を迎える直前の3月市議会定例会。ということで、市政全体にわたっての「二元代表」という「責務」を負いあっている「市長」・「市議」双方のありよう・あり方を念頭に思いをぶつけあい、ただしあわせていただきたい。

私、「権現荘」対応や「姫川病院」対応、更に「ジオパーク」対応など、単一的・画一的に捉えて頭から「ダメ」と断じ、抑えつけてはいません。

ただ、「市民」には弱い人もいます。モノ言えぬ人もいます。だからこそ、「市政」は「そこのけ・右ならえ」なってはなりません。そして、そのためにこそ「議会」

質 問 事 項

であり、「議員」なんです。

ということで、これまで取り上げ続けてきた事案の中から具体例上記5点に絞り込み、取り上げさせていただきます。度々お聞きしている事柄ですが、冒頭申し上げましたように、時期も時期、ということで市長、改めて考えるところ目指すところをお聞かせください。よろしくお願いいたします。

1 身の回り、「高齢化社会」へ

私、もうすぐ84歳。今、まさに私たち「転げ上がる勢い」での「高齢化社会」に置かれています。いや、投げ出されていると見るべきか。それにしても、これは厳然たる事実。

だからこそ私たち、目指すべきは、いや、目指さねばならないのは、どんなに弱い立場に置かれようが、誰もが安心して堂々と「年寄り」になっていけるまちづくりだ一と、我が身をもって訴え続けさせてもらっております。

ということで、

現実①「平均寿命・健康寿命」(国) —2018(平成30)年の平均寿命は、女性87歳・男性81歳、健康寿命は、女性75歳・男性72歳。

現実②「年齢別人口分布」(当市、基準日:令和元年8月1日) —総人口42,468人、このうち75歳以上の後期高齢者は、22%に当たる9,447人。これが65歳以上の老年人口となると、39%に当たる16,658人。しかも、この流れ、上向きの一途。

現実③高齢社会化対応一足・買い物・配り物・回覧など、日頃の暮らしで否応なしの対応を迫られる事象。私はこれらへの対応を「支援」感覚で捉えるのではなく、「責務」として対応する行政執行へと持っていこうではないかと強く訴えております。

以上、具体例3点を。

「オカミ・行政」の力は、「タミ・市民」のそれとは比べようもないくらいに大きい。情報収集・発信力しかり、財源収集・執行力しかり。が、これとてそれなりの力を市民(タミ)が行政(オカミ)に与え、託しているということ。両者・双方、そのところを考え合う。それがあってこそその「高齢者対応・高齢社会化構築」です。

2 柵口温泉「権現荘」

「柵口温泉事業特別会計」という市の予算・決算名での議会審議の場が最後となったのが2016(平成28)年3月・2017(平成29)年9月。

本件については問題がありすぎ。例えば2016(平成28)年9月市議会定例会での「権現荘事業における行政責任を問う決議なる発議案」。結果は、賛成7・反対11で否決でした。内容は至極当然のこと「度重なる不祥事を教訓とせず、放漫経営を続けてきたことに猛省を促し、責任を明確に」というもの。

私、いまでも根気よく主張し続けています。

①「市・オカミ」の責任—行政執行のあり方こそが問われる。市長はもちろん、関

質 問 事 項

係者は相応の責任を自覚すべき、負うべき。

②根っこ「弱い立場の市民一人ひとりの健康・福祉のため」という基本理念からあまりにもかけ離れたリニューアル路線への道を通ったことが「今」を生んでしまった。その自省を市長・行政は当然、一方この流れを監視し、モノ申すはずの議会も。

③「市民・タミ」の動き一度重ねての市民（タミ）側からの「温泉センター存続」への動き・働きかけ（平成22～25年）を行政（オカミ）は重視すべきだった。が、そのような配慮の動きはほとんど見られなかった。

④「指定管理者」一何のための施設かをしっかりさせないまま、表向きの数字や経理、更には派手な売り込みなどに振り回され、肝腎のタミ（市民・住民一人ひとり）を軽んじた結果が、民間参入の空振りや対応の二転三転につながっていった。市・行政の猛省を促したい。

3 「姫川病院」、このままで

2007（平成19）年6月4日、糸魚川医療生活協同組合・姫川病院が突然の倒産・閉院。市民・組合員ら損害賠償請求が起こされたが、2013（平成25）年3月26日、上告棄却—という道をたどりました。

当時、出資・債権者側で出した新聞折込み・報告書などでは概要こう言っています。

「一経営側の社会的責任が問われることなく、裁判終了は納得できない。が、私たちの訴えはムダではなかった。医療過疎のなか、姫川病院に願いや期待を。それらをしっかり実現するには、役所や組合におまかせでなく、市民参加と協働を高めていくことが大切—」。

いま一つ、大きな問題は「空き家」対応。まさに「姫川病院」は、空き家の代表例。しかもこの「空き家」、設立から倒産に至るまで、いろいろな形・中身で市が関わり続けてきました。このことは衆目の認めるところ。であればこそ「市・オカミ」がそれなりの対応をしなければ。それが当然の「責務」。

一方、このときの市長の対応は、「—新聞折込みチラシは拝見。が、これまで申しあげてきたとおり市長としてはお答えを差し控えさせて—」の一点張り。これでよいはずなど絶対にありません。

4 「弱者」をこそ「市政」に

私、ことあるごとに訴え続けていること。それは、「市民一人ひとりこそが市政の主要・主人公。弱ければ弱いほど。もって任ずべきが『二元代表』としての『市長』・『議員』の根っこ—と。

2017（平成29）年9月、「議会基本条例」が動き出しました。その根っこに「『二元代表』双方、本モノを目ざしながら行政を進めよう」がありました。

私たち、①市民（タミ）と行政（オカミ）の力の差を双方冷静に見極め対応するこ

質 問 事 項

とこそが肝要。②市民（タミ）の中には「ガンバロウ」・「負けるな」・「元気で」・「賑わいを」と鼓舞激励されても、残念ですが、口惜しいけれども、それができない人も多い。むしろ、「ガンバレない」・「負けそうだ」・「元氣になれない」・「静かさを」という弱い立場を抱えている人も多い。

行政執行の根っこを「強・大・多・賑わい」の追っかけから、「弱・小・少・静かさ」へ置き直してみようではありませんか。

誰しも「トシをとる」・「ヤマイに見舞われる」・「弱さをかかえる」一。であればこそ、「どんなに弱くなるうが、『自分』なりきの生きかたが堂々とできる。そんなまちをそんな糸魚川を目ざす」その下地づくりこそが行政の「責務」ではないでしょうか。

5 二元代表の一方、「市議」の数

二元代表の一方、「市議」の現行定数20と決まったのが2012（平成24）年6月11日本会議出席議員全員（議長を除く25人）の投票で。

「定数20」の発議案が13人連書で提出され、これを記名投票、過半数13人で決定。

私、「この糸魚川、18人が妥当では」と言い続けておりました。ただ、私、やみくもに「減らしさえすれば」ではありません。目指し続けているもの。それは「オカシイものはオカシイ」「ダメなものはダメ」を、思い様々なそれぞれ「一人の議員」として動かなきゃダメ、それが一番の根っこ。数の多い少ないや数合わせの流れに乗ってはダメ、堂々と主張し続ける根気・勇気をと主張し続けてきました、し続けています。いろいろな思いや生き方や暮らしのある一人ひとりの「市民」が主役・主人公。その一人ひとりから選ばれているのですから。

生意気を言わせてもらえれば、これが「議会制民主主義」の根っこ。であってみれば、「議員定数」問題、それぞれ「一人ひとり」の「議員」が、それぞれ「一人ひとり」の「市民」の思いや願いをこれまで述べ続けてきた思いを込め、更に加えて、更に言えば、あえて具体例の一つを挙げさせてもらえば、今の3常任委員会制の良さを最大限に活かすことを訴えながら、「議員定数」問題に対応させていただいております。

更にいま一つ、議員の数問題と併行して訴えていること。それは、広域糸魚川です。当然各地自治会・町内会などの機能の向上を図り、充足させるためにも、行政機能の心配りの細やかな強化が必要だということです。このことを、あえて重ねて訴えさせていただきます。どうお考えでしょうか。